広報つくば９月号から抜粋

連載企画

身近な山や川をジオの視点から楽しむ！
筑波山地域ジオパーク探訪

問 ジオパーク室

その2

前回に引き続き、広報つくばでは、主につくば市にあるジオサイトを中心に筑波山地域ジオパークの見どころを紹介します。

身近な山・川②　桜川～桜川中流ジオサイト～

桜川の礫（れき）はどこから来たの？

今回は桜川の歴史を、礫（直径2mm以上の石ころ）に着目して振り返ってみましょう。

桜川は、桜川市の鏡ヶ池から、筑波山の西側を通って、霞ヶ浦に流れ込んでいます（図1）。桜川では、泥岩・砂岩などの堆積岩や、安山岩・流紋岩などの火山岩など、大小さまざまな礫が見られます（図2、3）。堆積岩は、土砂や生物の殻などが降り積もってできた岩石で、桜川上流に分布しています。一方、火山岩は、マグマが地表付近で冷えて固まった岩石で、一般的に火山などで多く見られます。しかし、現在の桜川周辺には、筑波山を含め火山はありません。一体、桜川の火山岩の礫はどこから運ばれてきたのでしょうか？

筑西市蓮沼付近から桜川市酒寄付近に広がっている古里川（ふるさとがわ）低地（図1）に、その答えが隠されています。古里川低地では、現在は河川が存在しないところにも、河川によって作られた地形が残されています。およそ3万年前には、「古鬼怒川（こきぬがわ）」と呼ばれる大河川が、現在の鬼怒川上流の栃木県日光付近から、古里川低地を通って霞ヶ浦まで流れていたそうです。桜川で見られる火山岩の礫は、この古鬼怒川によって、約70kmも離れた鬼怒川上流付近の火山から運ばれてきたと考えられています。

何気なく河原で見かける石ころにも、過去から続く大きなストーリーがあるのですね！皆さんも、身近な石を見かけた時は、その石の歴史に思いをはせてみませんか。

▲図1　桜川、鬼怒川周辺の地形

▲図2　桜川の河川敷（禊橋付近）

▲図3　桜川で見られる主な礫

◀図4　桜川中流ジオサイトの解説板

お薦めスポット「禊橋（みそぎばし）付近の河川敷」

今回は、禊橋付近の河川敷を紹介します（図2）。禊橋は桜川にかかる橋で、県道214号線がその上を通っています。禊橋下流100mほどの河川敷や中州では、桜川の礫がよく観察できます。また、左岸側には礫が堆積した時の堆積構造が残されています。この地点には、桜川中流ジオサイトの解説板（図4）が新たに設置されたので、ぜひご覧ください！　※河川では、水難事故の危険性があります。天候、水位、堰の開閉などに十分注意してください

次回のテーマは、小貝川です。お楽しみに！